

2006年10月16日

会社名 株式会社 高島屋  
 代表者名 取締役社長 鈴木 弘治  
 コト番号 8233

## 2006年9月度 高島屋営業報告

### 【総計】(前年対比、単位：%)

| 株高島屋計 | 分社4店含む実質 |
|-------|----------|
| +4.0  | +4.5     |

9月度は百貨店事業、広域事業ともに前年売上実績を上回り、分社4店含む実質では+4.5%となった。前年実績のクリアは昨年9月度以降、13か月連続となった。

※分社4店とは、関西地区の岡山高島屋・岐阜高島屋・米子高島屋、関東地区の高崎高島屋です。

### 【百貨店事業概況】(前年対比、単位：%)

| 分社4店除く | 18店計 |
|--------|------|
| +4.2   | +4.7 |

9月度は気温低下に伴って秋物のファッション商材中心に動きが活発となり、また食料品等が引き続き好調に推移した結果、全18店舗が前年売上実績をクリアした。18店計の売上は+4.7%で、12か月連続のプラスとなった。

### 【店舗別概況】(前年対比、単位：%)

| 関西地区 | 大阪店  | 京都店  | 泉北店   | 岡山高島屋 | 岐阜高島屋 | 米子高島屋 |
|------|------|------|-------|-------|-------|-------|
| 売上高  | +4.1 | +5.8 | +11.8 | +5.9  | +44.8 | +1.1  |
| 入店客数 | △1.5 | +4.6 | +4.3  | △2.4  | +27.8 | +3.2  |

| 関西地区合計 |      |
|--------|------|
| 分社3店除く | 9店計  |
| +5.3   | +6.8 |

※大阪店の売上高には和歌山店・堺店の売上高を、京都店の売上高には洛西店の売上高をそれぞれ含みます。

※大阪店・京都店の入店客数はそれぞれ単店になります。

| 関東地区 | 東京店  | 横浜店  | 新宿店  | 玉川店  | 立川店  | 大宮店  | 柏店   | 高崎高島屋 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 売上高  | +6.0 | +1.7 | +4.3 | +5.3 | +1.3 | +1.6 | +2.7 | +0.8  |
| 入店客数 | +3.1 | △1.2 | △3.6 | △0.0 | △7.2 | △2.7 | △3.4 | △3.6  |

| 関東地区合計 |      |
|--------|------|
| 分社1店除く | 9店計  |
| +3.5   | +3.4 |

※横浜店の売上高には港南台店の売上高を含みます。

※横浜店の入店客数は単店になります。

関西地区計の売上前年対比は+6.8%で、2か月連続の前年実績クリアとなった。

大阪店は、丸井出店による難波地区の環境変化の中で秋物ファッション商材が好調に推移。紳士服や紳士・婦人雑貨等が前年から売上を2桁伸ばした。京都店は15日(金)にリニューアルオープンしたレストラン街や食料品のほか、ファッション商材が好調に推移した。また、泉北店も同日オープンした婦人雑貨等のリニューアル効果が出ている。そのほか、岐阜店は12か月連続、洛西店も7か月連続で前年実績を上回り、リニューアル後の好調が続いている。

関東地区計の売上前年対比は+3.4%で、13か月連続のプラスとなった。

東京店は紳士・婦人服や雑貨等のファッション商材、宝飾品等の高額品、食料品が好調に推移し、5か月連続で前年実績をクリア。横浜店はファッション商材に加えてリビング、宝飾品等が売上を伸ばし、17か月連続で前年プラスとなった。新宿店もファッション商材やリビング等が好調で、特選衣料雑貨や宝飾品等の低迷をカバーし、2か月ぶりに前年実績を上回った。

### 【広域事業概況】(前年対比、単位：%)

|     | 法人事業  | 通販事業  | 広域事業計 |
|-----|-------|-------|-------|
| 売上高 | +13.2 | △13.1 | +1.9  |

法人事業は企業向けの販促品等で新規物件や大型物件の計上が進み前年売上実績を大きく上回った。通販事業は宝飾・貴金属に動きが見られたが婦人服や食料品等が低調で3か月ぶりに前年実績を下回った。

### 【商品別概況(百貨店協会商品区分)】(前年対比、単位：%)

|        | 株高島屋計 | 分社含む実質 |
|--------|-------|--------|
| 紳士服・洋品 | +9.9  | +10.4  |
| 婦人服・洋品 | +3.9  | +4.3   |
| 子供服・洋品 | +6.3  | +7.2   |
| その他衣料品 | △6.1  | △6.4   |
| 衣料品計   | +4.2  | +4.6   |

|         | 株高島屋計 | 分社含む実質 |
|---------|-------|--------|
| 身のまわり品  | +2.5  | +2.9   |
| 家具      | △8.9  | △7.6   |
| 家電      | △0.8  | +0.8   |
| その他家庭用品 | +2.2  | +3.7   |
| 家庭用品計   | △1.5  | +0.0   |

|       | 株高島屋計 | 分社含む実質 |
|-------|-------|--------|
| 食料品   | +4.0  | +5.0   |
| 食堂・喫茶 | +10.8 | +12.0  |
| 雑貨    | +7.6  | +7.7   |
| サービス  | +4.2  | +4.2   |
| その他   | +5.1  | +5.1   |
| 合計    | +4.0  | +4.5   |

### 〈当社分類による百貨店事業の商品別概況〉

ファッションアイテムでは秋物商材中心に順調に推移し、紳士服(前年対比+12.1%)はカジュアルジャケットの好調に加え、ショップゾーン等ではレザーやダウンといったトレンド素材の出足も良好であった。婦人服(同+4.8%)ではトレンドアイテムのワンピースが好調なほか、ヤング・キャリアゾーンではロング丈のニットやコート中心にアウターに動きがあった。婦人雑貨(同+9.1%)はウール製の帽子や手袋、マフラー・ストール等の商材が伸び、婦人靴、婦人アクセサリー、ハンドバッグ等の主要アイテムも順調であった。そのほか、食堂(同+9.4%)、宝飾品(同+7.6%)、紳士雑貨(同+5.7%)、食料品(同+5.6%)等が前年実績を上回り、美術(同△10.8%)、呉服(同△3.9%)等は前年実績に至らなかった。